

ウスイロヘンカドガイ

Paludinella stricta (Gould)
新生腹足目・カワザンショウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】—

選定理由

潮間帯の大きめの転石の側面や灌木帯、漂着物の下、川の河口付近のれき間やヨシ群落の流木下にも生息する。県内では越前町四浦や厨産の標本が存在するが、50年以上確認されていない。

種の特徴

殻高 6mm、殻径 4mm、螺層は 6.5 層。殻は円錐形卵型で光沢のある黄橙色。殻口はやや洋ナシ型で薄い角質膜状の蓋がある。軟体部は黒く、触角も長い。陸棲と海浜棲が存在し、ヘンカドガイ属は分類が混乱しており、再検討が求められている。

分布

日本では能登半島・房総半島以南の本州から沖縄まで分布する。県内では飛沫のかかる自然海岸で採捕されていた。

生息を脅かす要因

潮間帯上部の飛沫がかかる自然海岸帯が、駐車場、漁港拡張、道路建設、護岸工事で埋め立てられたりして、大きく生息地が縮小している。

参考文献 福井県 (1985)、増田・内山 (2004)、窪田 (1962)、黒田 (1933)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							●										

クリイロカワザンショウガイ

Angustassiminea castanea (Westerlund)
新生腹足目・カワザンショウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

河口干潟や河口内湾奥部の高潮線付近のれきや流木のヨシ原内の転石下やゴミの間に生息する。越前四ヶ浦や若狭和田の標本が残されているが、現在では九頭竜川河口域や北潟湖・三方五湖の高潮帯のアシ原湿原等では数十年生息が確認されていない。

種の特徴

愛知県産を観察すると、高約 5mm、殻径 3mm の殻は小型、高い円錐形。栗色～赤褐色の殻は縫合の下に細い 1 螺条溝があり、ハケ班状に侵食され白くなる。臍孔は開かず、蓋は角質、少旋型。軟体足部は黒褐色で口吻、頭部、足の側面が黒い色素で覆われる。

分布

房総半島以南の本州・四国・九州の太平洋側海岸線・瀬戸内海に分布している。現在では本県の九頭竜川や河口域や北潟湖や三方五湖は生息域ではない。

生息を脅かす要因

生息地が潮間帯最上部の河口内の高潮帯のヨシ原湿原に限定されるため、水質汚染、海岸の埋め立て、河川改修等の縮小が生息を脅かす最大の要因。生息する高潮帯のヨシ湿原の再生が重要である。

参考文献 福井県 (1985)、増田・内山 (2004)、窪田 (1962)、黒田 (1933)、丸井 (2002)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			●														

ヘンカドガイ

Paludinella japonica (pilsbry)
新生腹足目・カワザンショウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】—

選定理由

自然海岸の海岸線上部の灌木根元や海藻の打ち上げられるれき間に生息する。県内には過去の標本があるが、1997 年のナホトカ号重油流出事故で壊滅的に潮間帯生物が激減したが、それ以前の数十年も生息が確認されていない。

種の特徴

ヘンカドガイ類の中小型で、殻高 6 mm、殻径 4 mm、螺層 6 層の円錐形卵型。硬質堅固。殻は光沢のある茶褐色。体層は膨らみ周縁に弱い竜骨状の角がある。軟体部は漆黒褐色で、触角は長く基部に目がある。他県の城ヶ崎では海岸道路の潮間帶上部で多くみられた。

分布

日本では秋田県～九州・屋久島に分布し、県内では越前海岸に分布。県内では四ヶ浦産の標本が残っている。一次・二次の「みどりのデータバンク」今回の RDB 調査でも確認がない。

生息を脅かす要因

福井県では、越前加賀国定公園、若狭湾国営公園の景勝地に位置し、海岸道路が整備され、少ない平地は埋め立てが進み、自然海岸線が少なくなり

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、窪田 (1962)、増田・内山 (2004)、水産資源保護協会 (1997)、東正 (1995)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									●								●